

東洋・日本美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
東洋・日本美術史概論	日本絵画史	2	杉本欣久	3	金	4
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現	2	長岡龍作	4	金	4
東洋・日本美術史基礎講読	日本近世絵画資料講読	2	杉本欣久	3	金	5
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文研究	2	長岡龍作	4	金	5
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長岡龍作 杉本欣久	3	火	3・4
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長岡龍作 杉本欣久	4	火	3・4
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡龍作	5	月	3
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡龍作	6	月	3
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本欣久	5	水	3
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本欣久	6	水	3
東洋・日本美術史各論	中国絵画通史	2	竹浪 遠	集中		
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長岡龍作	5	木	2
東洋・日本美術史講読	美術資料を読む	2	杉本欣久	6	木	2
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡龍作 杉本欣久	5	火	2
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡龍作 杉本欣久	6	火	2

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LB35402, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本絵画史

2. Course Title (授業題目) : Japanese Painting History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides an overview of Japanese art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in Est Asia.

5. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つけ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of each era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器（プロジェクター）を使用して美術作品を鑑賞する。

1 回目 ガイダンス

2 回目 日本人と絵画 一画題研究 1ー

3 回目 花鳥風月・四季四時 一画題研究 2ー

4 回目 筆墨 一東洋絵画の見どころー

5 回目 古代の絵画 一白鳳・奈良時代ー

6 回目 聖徳太子信仰と美術 一画題研究 3ー

7 回目 平安京と鎮護国家の美術 一平安時代 1ー

8 回目 浄土教と法華経の美術 一平安時代 2ー

9 回目 絵巻物 1 (縁起絵巻) 一平安時代 3ー

10 回目 絵巻物 2 (物語絵巻) 一平安時代 4ー

11 回目 宮中絵所預とやまと絵の系譜 一鎌倉～室町時代 1ー

12 回目 吉祥画と蓬萊山信仰 一画題研究 4ー

13 回目 禅の興隆と水墨画 一室町時代 2ー

14 回目 禅の興隆と道釈人物画 一室町時代 3ー

15 回目 「魚」を描く意味 一画題研究 5ー

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

10. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness :

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他 :

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：長岡龍作（教授）

講義コード：LB45403, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現

2. Course Title (授業題目) : Basic study of Japanese art history—Subjects of sculpture and Representation

3. 授業の目的と概要：

古代からの日本美術の歴史を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

If you overview the history of Japanese art from ancient times, you can see that many arts were born out of relationships with faith. Because religions that envision an invisible world need arts that visualizes it. In this course, among the religious arts created in Japan, I focus on sculptures in particular. I explain the essential relationship between religion and art through introducing the arts that the human spirit created.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本美術史における基礎的な知識を身につける。
- (2) 美術史研究の基礎的な方法論を身につける。
- (3) 特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) Students gain basic knowledge in Japanese art history.
- (2) Students learn the basic methodology of art history research.
- (3) Students learn the knowledge and method, especially about sculpture research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イン트로ダクション—仏像とは何か？
2. 仏像と仏舎利
3. 釈迦如来への信仰と表現
4. 亡き人のための造像
5. 阿弥陀如来への信仰と表現
6. 薬師如来への信仰と表現
7. 弥勒菩薩への信仰と表現
8. 観音菩薩への信仰と表現
9. 霊験と仏像
10. 天の役割と表現
11. 地藏菩薩への信仰と表現
12. 神像の出現
13. 彫像がみちびく世界観
14. 肖像の表現と役割
15. 試験

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年

10. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LB35502, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本近世絵画資料講読

2. Course Title (授業題目) : Training to read documents related to the paintings in the Edo era

3. 授業の目的と概要：

日本近世絵画史の研究に必要な「変体がな」を読みこなすためのトレーニングとして、基礎資料である『都林泉名勝図会』などの版本および実作品に付された賛文の基礎を学ぶ。さらに寺社の縁起や画家の伝記に関して、調査方法を獲得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides a training program to read "Miyako Rinsen Meisyou Zue" and "Gajyou Youryaku" which are documents related to the paintings of the Edo era.

5. 学習の到達目標：

美術史とは作品資料と文献資料の双方から情報を引き出し、作品を制作した人物やその時代の精神を明らかにすることを目的とする。それゆえ、文献資料の読解もおろそかにするわけにはいかず、日本史や中国史の研究者と同等の能力が求められる。それを獲得するためには継続的なトレーニングが必要となるが、本講では入門篇として江戸時代の「変体がな」で書かれた資料に触れ、その基礎を学ぶことを目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course aims to improve the students' ability to read documents related to the paintings in the Edo era.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

配布する資料を各自で読解し、残り時間で順番に読み上げていく。講師はそれに対して解説を加える。

1 回目 ガイダンス

2 回～8 回 『都林泉名勝図会』を読む

9 回～14 回 画賛を読む

15 回 読解テスト

8. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを読解し、その習熟度および最終回のテストによって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

10. 授業時間外学習：

授業で講読した資料の復習を十分に行うとともに、関連する資料にも目配りして日頃から触れておくことを求める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：長岡龍作（教授）

講義コード：LB45502, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：東洋・日本美術史論文研究

2. Course Title (授業題目) : Study on the papers of Oriental and Japanese art history

3. 授業の目的と概要：

東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジュメとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students take up basic research papers of Oriental and Japanese art history and carefully read them. One person give a presentation about contents of papers at each class, showing pictures and documents. Participants will read the paper in advance and discuss the content after the presentation.

5. 学習の到達目標：

東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students learn the methods to research through reading basic papers on Oriental and Japanese art history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODダクシヨンー東洋・日本美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
8. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
9. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
10. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
11. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
12. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
13. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
14. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
15. 総括と講評

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。

10. 授業時間外学習：

参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。

Participants should carefully read the paper in advance.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

Semester : 3, 単位数 : 2

担当教員：長岡龍作, 杉本欣久 (教授・准教授)

講義コード：LB32304, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目) : Theory and practice of handling artworks

3. 授業の目的と概要：

作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
2. 展示についての考え方と実践
3. 美術作品についての発表

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.

1. Handling artwork and how to research artworks
2. The thought for exhibition and practice
3. Preparation of art works

5. 学習の到達目標：

美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students learn the basic skills for art research and exhibition.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
4. 「掛軸」の基礎と取り扱い 1
5. 「掛軸」の基礎と取り扱い 2
6. 「屏風」の基礎と取り扱い 1
7. 「屏風」の基礎と取り扱い 2
8. 篆書(ハンコ)を読む
9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
11. 「仏像」の基礎と取り扱い
12. カメラの撮影と画像の使用
13. 箱の扱いと紐結び・工芸品の展示
14. 博物館・美術館見学
15. 取り扱い復習

8. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

9. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

10. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness : ○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

3セメ(前期)のみの受講は認めない。必ず4セメ(後期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)も履修すること。

実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

基本的にグループ学習であることから、最低限の協調性が必要となる。

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時, 後期 火曜日 4 講時

Semester : 4, 単位数 : 2

担当教員：長岡龍作, 杉本欣久 (教授・准教授)

講義コード：LB42304, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目) : Theory and practice of handling artworks

3. 授業の目的と概要：

作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
2. 展示についての考え方と実践
3. 美術作品についての発表

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.

1. Handling artwork and how to research artworks
2. The thought for exhibition and practice
3. Preparation of art works

5. 学習の到達目標：

美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students learn the basic skills for art research and exhibition.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 博物館・美術館見学
2. 和鏡の複製を作る 1
3. 和鏡の複製を作る 2
4. 和鏡の複製を作る 3
5. 顔料と染料、箔の取り扱い
6. 美術作品の梱包ー「掛軸」と「和鏡」の梱包ー
7. 調書の作成 1ー作品の観察ー
8. 調書の作成 2ー解説についてー
9. 調書の作成 3ー調査方法と記録の取り方 1ー
10. 調書の作成 4ー調査方法と記録の取り方 2ー
11. 博物館での調査
12. 展覧会の裏側「展示」を考えるー実地学習・藤崎ー
13. 江戸時代の画家を調べる
14. ミニ展覧会
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

9. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

10. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business : ○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

4セメ(後期)のみの受講は認めない。必ず3セメ(前期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)も履修すること。

実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

基本的にグループ学習であることから、最低限の協調性が必要となる。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：長岡龍作（教授）

講義コード：LB51306, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：信仰と造形

2. Course Title (授業題目) : Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、日本の各時代の美術を取り上げ、特に仏教思想との関わりからその意味と表現を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と美術の関係を理解する。
- (2) 美術に投影された世界観を理解する。
- (3) 表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) Students understand the relationship between religious thought and arts.
- (2) Students understand the world view projected on art.
- (3) Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション—「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり1 「日本美術史」前史
3. 「日本美術史」のはじまり2 「日本美術史」の成立
4. 「日本美術史」のはじまり3 「日本美術史」の展開と相対化
5. 古代日本の仏教美術と思想1—飛鳥時代
6. 古代日本の仏教美術と思想2—白鳳時代
7. 古代日本の仏教美術と思想3—奈良時代前期
8. 古代日本の仏教美術と思想4—奈良時代後期
9. 古代日本の仏教美術と思想5—平安時代前期—顕教
10. 古代日本の仏教美術と思想6—平安時代前期—密教
11. 古代日本の仏教美術と思想7—平安時代後期—撰関期
12. 中世日本の仏教美術と思想1—平安時代後期—院政期
13. 中世日本の仏教美術と思想2—鎌倉時代前期
14. 中世日本の仏教美術と思想3—鎌倉時代後期
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年

10. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：長岡龍作（教授）

講義コード：LB61308, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：信仰と造形

2. Course Title (授業題目) : Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、宗教美術と人間との関わりをさまざまな観点から探る。さらに、神祇信仰と美術の関わりについても論じる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と造形の関係を理解する。
- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) Students understand the relationship between religious thought and arts.
- (2) Students understand the world view projected on art.
- (3) Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション—「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 信仰と美術 1 作善と福行
3. 信仰と美術 2 願文考
4. 信仰と美術 3—旅と善業① 華嚴経
5. 信仰と美術 4—旅と善業② 龍宮
6. 信仰と美術 5—旅と善業③ 霊場
7. 信仰と美術 6—奉納と埋納① 正倉院
8. 信仰と美術 7—奉納と埋納② 経塚
9. 「神仏習合」とその表現 1—仏教と神仙思想
10. 「神仏習合」とその表現 2—天と神仙
11. 神祇信仰と美術 1—菩薩となる神
12. 神祇信仰と美術 2—神身離脱する神
13. 日本美術の諸相 1—隠逸と造形
14. 日本美術の諸相 2—都鄙と美術
15. 日本美術の諸相 3—美術と自然

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年

10. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LB53310, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 近世以前絵画史ーダイジェスト版ー
- 3 回目 狩野派の系譜(室町から桃山)
- 4 回目 狩野派の系譜(江戸狩野と英派)
- 5 回目 京都の町絵師(俵屋宗達から宮崎友禅へ)
- 6 回目 尾形光琳と乾山
- 7 回目 日本刀とその精神
- 8 回目 刀装具と鐔の意匠性
- 9 回目 8 代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 10 回目 対外交渉と長崎派
- 11 回目 沈南蘋と南蘋派
- 12 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 13 回目 池大雅と高田敬輔の系譜
- 14 回目 雪舟流 1 一雲谷派と矢野派一
- 15 回目 雪舟流 2 一長谷川派と江戸の雪舟流一

8. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

1 0. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：杉本欣久 (准教授)

講義コード：LB63309, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 江戸絵画の「真」「贋」ー研究に立ちふさがる壁ー
- 2 回目 江戸と浮世絵 1
- 3 回目 江戸と浮世絵 2
- 4 回目 武士の絵画 1 ー鑑戒ー
- 5 回目 武士の絵画 2 ー暢神ー
- 6 回目 京都と円山派 1 ー円山応挙ー
- 7 回目 京都と円山派 2 ー応挙の門人たちー
- 8 回目 京都と四条派 ー蕪村、呉春とその門人 ー
- 9 回目 天下の台所・大坂の絵画
- 10 回目 好古家と考古学の黎明
- 11 回目 江戸の絵画 1 ー諸大名の文芸と谷文晁の登場ー
- 12 回目 江戸の絵画 2 ー洋風画(司馬江漢・渡辺華山)ー
- 13 回目 江戸の絵画 3 ー渡辺華山「千山万水図」に描かれた景ー
- 14 回目 仏教における復古思想と書画
- 15 回目 伊藤若冲 ーその真実を探るー

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：0, 単位数：2

担当教員：竹浪 遠 (非常勤講師)

講義コード：LB98827, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中国絵画通史

2. Course Title (授業題目)：Chinese Painting History

3. 授業の目的と概要：

中国絵画は古代以来の歴史があり、伝統の上に創造が加えられることで豊かな展開を遂げてきた。この講義では、その始まりから伝統中国の最後の王朝となった清までの展開を、現存作品と関連文献によってたどっていく。美術史学の特徴である作品からのアプローチを重視し、各時代の代表作例を軸に論じていくことで、研究の方法を具体的に提示する。さらに作品成立の背景にある思想や文化等についても紹介する。中国絵画は日本絵画へ与えた影響も大きいいため、その具体的な様相にも言及する。以上によって、中国絵画史の総合的な理解が得られることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The history of Chinese painting has grown richly since ancient times, retaining both tradition and creation. In this lecture, the development from the Neolithic era to the Qing dynasty will be traced through existing works and related literature. The important point is to extract information from those works. It is a characteristic method of art history. By examining the masterpieces of each era, I will present concrete methods of studying art history and introduce the philosophy and culture behind works. Since Chinese painting had a great influence on Japanese painting, I will also mention its specific aspects. The purpose of the above is to gain a comprehensive understanding of the history of Chinese painting.

5. 学習の到達目標：

中国絵画史に関する基礎的な知識を理解するとともに、研究方法についても習得し、作品の意味や表現について自発的に観察、考察が行えるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim is to understand basic knowledge about the history of Chinese painting, learn the research methods, and to be able to spontaneously observe and consider the meanings and expressions of works.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義レジュメを配付し、主な画家や代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターや複製によって提示する。

- 1 中国絵画のルーツ 1：新石器時代～殷・周 (玉器、青銅器、金文)
- 2 中国絵画のルーツ 2：春秋戦国 (工芸意匠)
- 3 古代帝国の造形 1：秦 (始皇帝陵)
- 4 古代帝国の造形 2：漢 (仙界を巡る画像)
- 5 人物画の発達と画の六法：魏晋南北朝 (顧愷之、陸探微)
- 6 道釈人物画の隆盛：隋～唐 1 (閻立本、吳道玄)
- 7 盛唐における山水の変と中唐の水墨画：唐 2 (海図と樹石画)
- 8 華北・江南山水画の成立：五代 (荆浩、関仝、董源、巨然)
- 9 山水画の黄金期：北宋 1 (李成、范寛、郭熙)
- 10 文人画の確立：北宋 2 (文同、蘇軾、李公麟、米芾)
- 11 徽宗とその画院：北宋 3 (王希孟、張昞端)
- 12 院体画と僧侶の墨戯：南宋 (李唐、馬遠、夏珪、牧谿、玉潤)
- 13 文人画の発展：元 (趙孟頫と元末四大家)
- 14 浙派から呉派へ：明 (戴進、李在、呂紀、沈周、文徵明)

15 南宗画の時代：明末～清（董其昌と清初の正統派、江南諸都市の画派）

8. 成績評価方法：

レポート：70%

授業参加状況と小課題：30%

9. 教科書および参考書：

『世界美術大全集 東洋編』（小学館）（全17巻、1997～2001年）。

小川裕充『臥遊』（中央公論美術出版、2008年）。

曾布川寛監修『中国書画探訪—関西の収蔵家とその名品—』（二玄社、2011年）。

宇佐美文理『中国絵画入門』（岩波書店、2014年）。

竹浪遠『唐宋山水画研究』（中央公論美術出版、2015年）。

10. 授業時間外学習：

日ごろから博物館・美術館・社寺などに出かけ、美術作品を実際に見てもらいたい。また、『論語』、『莊子』、『史記』、『唐宋八家文』など中国の代表的な古典に親しんでほしい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡龍作（教授）

講義コード：LB54209, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本美術資料研究

2. Course Title (授業題目) : Study on art materials

3. 授業の目的と概要：

古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きを精読する。そのことを通して、絵画表現に込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「石山寺縁起」七巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝（華嚴縁起）」（元暁絵三巻・義湘絵四巻）、「慕婦絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「吉備大臣入唐絵巻」巻一～巻四（巻一詞書欠）、「玄奘三蔵絵」全十二巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students take up the picture scrolls important for considering the relationship between ancient medieval Buddhist thought and art, and carefully read the captions (narrative texts). Through that, students try to read the meaning contained in the painting expression. The object of the study is mainly the picture scrolls of "Jisha-engi" and "Sosi-eden".

5. 学習の到達目標：

絵画表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students acquire the skill for understanding painting expression and narrative texts, and the skill for finding related materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクションー授業の目的と方法論
2. パイロット発表
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
15. 総括と評価

8. 成績評価方法：

出席 [50%]、発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習：

参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：月・火・金の 13:00～17:00（但し、授業時間外）

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：杉本欣久（准教授）

講義コード：LB64210, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美術資料を読む

2. Course Title (授業題目) : Training to read information of Japanese art work

3. 授業の目的と概要：

「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めぐる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは、「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現するため、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を「トレーニング」するプログラムである。

たとえば、絵画作品について「筆遣いが良い」との評価がなされた場合、それを「実感」するためには「感性」によるしかない一般的な思われているだろう。ここで言う「感性」とは持って生まれたり、環境によって育まれた個人の「資質」に起因するものだが、そのように規定してしまえば「教育」の余地が失われることになってしまう。けれども、多くの人がそれを「実感」し、共有するためには「教育」が不可欠であり、それは「トレーニング」の方法次第で成し得ると講師は考える。

そこで本講では同じようにみえる類似した 2 作品を提示し、その中に存在する相違点を見出して指摘、発表していく実習形式をとる。作品比較を続けていけば、やがて「どちらが良い線か」「どちらが上手いか」などの「認識」が育まれてくる。これは美術史研究にとって不可欠な「スキル」であり、その先に「真贋」の判別にも必要な「鑑識眼」の獲得に結びつくのは言うまでもないだろう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides programs of training to read information on Japanese art work. It helps students learn about the differences between Japanese art work by comparison and appreciate them.

5. 学習の到達目標：

美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to improve the students' ability to read information on art work and explain their thoughts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

予習で行ってきた作品観察、解説批判の結果を、最初の 1 時間で受講生が発表する。残りの 30 分は視覚機器(プロジェクター)を使用し、講師が作品について論じる。

1 回目 ガイダンス

2 回目 絵画

3 回目 刀装具

4 回目 刀装具

5 回目 絵画

6 回目 絵画

7 回目 和鏡

8 回目 和鏡

9 回目 絵画

10 回目 絵画

11 回目 仏像

12 回目 陶磁器

13 回目 絵画

14 回目 絵画

15 回目 受講生による作品の比較発表

8. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを分析し、その質疑応答によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

人前で話すのが苦手であったり、めんどうであるといった人には不向きである。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

単位を取得するためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：長岡龍作, 杉本欣久 (教授・准教授)

講義コード：LB52211, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on art works

3. 授業の目的と概要：

東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博搜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学習の到達目標：

美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクションー美術史研究の方法論

2. パイロット発表

3. パイロット発表

4. パイロット発表

5. 発表準備

6. 発表準備

7. 発表準備

8. 発表準備

9. 発表準備

10. 作品研究発表 (4年次学生) ならびに討論

11. 作品研究発表 (4年次学生) ならびに討論

12. 作品研究発表 (4年次学生) ならびに討論

13. 作品研究発表 (4年次学生) ならびに討論

14. 作品研究発表 (4年次学生) ならびに討論

15. 総括と講評

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年

10. 授業時間外学習：

参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：長岡龍作, 杉本欣久 (教授・准教授)

講義コード：LB62209, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：

東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博搜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学習の到達目標：

美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論
8. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論
9. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論
10. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論
11. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論
12. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論
13. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論
14. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論
15. 作品研究発表 (3年次学生) ならびに討論

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年

10. 授業時間外学習：

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

